

◆消化器内科

副院長 藤本貴久・築村哲人・長島不二夫

2019年3月より、消化器内科の常勤医師は3名になった。非常勤医師は1名と変わらず。消化器内科外来は週5日であり、肝臓専門外来を熊本大学病院から派遣の非常勤医師が週1日担当した。

内視鏡検査実績 (件)

	2019年度	2018年度
上部消化管（処置、健診を含む）	1,810	1,636
下部消化管（処置を含む）	734	615
ERCP（処置を含む）	11	17
超音波内視鏡	0	0

内視鏡治療実績 (件)

	2019年度	2018年度
食道ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	0	0
胃ポリペクミー（EMRを含む）	1	1
大腸ポリペクミー（EMRを含む）	131	72
胃ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	3	4
大腸ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）	1	3
食道胃静脈瘤治療（EVL, EIS, APC）	0	0
内視鏡的止血術（上部）	22	17
内視鏡的止血術（下部）	7	2
異物除去	0	4
食道狭窄拡張術（ステント、バルーン）	1	14
PEG造設	2	9
PEG交換	20	28
内視鏡的胆道ステント留置術	5	7
内視鏡的乳頭切開術	3	7

内視鏡検査件数は前年度と比較してERCP以外は増加した。内視鏡治療件数は前年度と比較して、大腸ポリペクミー、内視鏡的止血術（上部、下部）の件数が増加した。

主な消化器疾患入院症例数（主病名のみで重複なし） (例)

	2019年度	2018年度
逆流性食道炎	2	0
マロリー・ワイス症候群	1	0
食道・胃静脈瘤	0	0
食道狭窄	1	0
進行食道癌（術後を含む）	1	0
胃毛細血管拡張症	1	0
胃ポリープ	2	0
早期胃癌（外科転科症例を含む）	3	3
進行胃癌（外科転科症例を含む）	3	2
十二指腸狭窄症	1	0
ダンピング症候群	0	1
十二指腸乳頭部癌	1	2
(出血性)胃十二指腸潰瘍	17	8
急性胃腸炎	6	0
食欲不振、悪心、嘔吐	2	1
大腸ポリープ	53	32
急性胃腸炎	10	0
大腸癌(腺腫内癌、外科転科症例を含む)	10	2
大腸憩室出血	7	1
感染性腸炎（出血性腸炎を含む）	4	3
イレウス(サブイレウスを含む)	7	0
虚血性大腸炎	8	5
潰瘍性大腸炎	1	0
大腸憩室炎	5	0
偽膜性腸炎	1	0
上腸間膜動脈症候群	0	3
S状結腸軸捻転	0	3
直腸カルチノイド	3	0
消化管出血（出血源不明）	2	0
急性虫垂炎	2	0
癌性腹膜炎	1	0
肝障害	4	1
急性肝炎	1	2
自己免疫性肝炎	0	0
原発性胆汁性胆管炎	0	0
肝硬変（肝不全を含む）、腹水	8	3
肝性脳症	1	7
肝細胞癌	6	4
転移性肝癌	4	0
肝膿瘍	0	1
胆石胆嚢炎（外科転科症例を含む）	9	5
総胆管結石性胆管炎	11	9
胆石性膵炎	2	2
胆管癌	2	0
胆石疝痛	0	1
胆嚢癌	1	3
急性胆管炎	7	0
急性膵炎（慢性膵炎急性増悪を含む）	6	3
膵臓癌	1	6
悪性リンパ腫	0	0
嚥下障害	0	1
急性アルコール中毒	2	0
その他	282	96

入院症例の高齢化に伴い、何らかの合併症を有する症例が多かった。原疾患は治癒しても、合併症のために入院期間が長くなるケースが多かった。手術や化学療法可能な症例が減少し、緩和ケアを行う症例が増加した。消化管疾患は全体的に症例数が増加傾向を認めた。肝胆膵疾患においては、胆石胆嚢炎、急性胆管炎（総胆管結石性胆管炎を含む）、肝癌、急性膵炎などの症例が増加した。